年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（２学年用）教科　芸術　科目　書道Ⅱ

教　科：芸術　　科　目：書道Ⅱ　　単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（ 齋藤理絵 ）

使用教科書：（ 書Ⅱ〈光村図書〉）

教科　芸術(書道Ⅱ)　の目標：

【知識及び技能】　諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に収集し、作品を明瞭・的確にまとめる**技能**を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】　作品の課題を設定し、その解決に向けて考察・構想して作品を効果的に**表現**する力を身につける。

【学びに向かう力・人間性等】　より高い作品の**完成**を視野に、課題解決の過程を振り返って改善しようとする主体性を身につける。

科目　書道Ⅱ　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力・人間性等】
書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身についている。 （用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する）	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりすることができる。 （作品の課題を設定し、その解決に向けて考察・構想して作品を効果的に表現している）	授業内容に関心を持ち、積極的な姿勢での取り組む。 古典臨書の理解力と実践・発展力、また創作作品制作時の発展的な想像力の充実が図れている。 適切な用具用材の取り扱い（準備、片付け等を含む）ができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 漢仮	表現 漢	表現 仮	鑑賞	評価規準	知	思	学	配当時数
1学期	**【仮名の書】** ➢『本阿弥切本古今和歌集』 ➢『関戸本古今和歌集』	① 同じ和歌を書した「本阿弥切本古今和歌集」と「関戸本古今和歌集」を比較し、仮名の組み合わせ方による表現の広さがりを感じる。 ② 書Ⅰから系統的に学習してきた平仮名・変体仮名の多種性に触れる。 ③ ２つの古い古筆の用筆の違いをを理解し、書風に即した用筆・運筆を意識して臨書する。			○	○	（知） 仮名の書を構成する様々な要素や、仮名の古筆の特徴と用筆・運筆とのかかわりについて理解している。 （思）仮名の古筆の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 （学）主体的に仮名の書の創造的な表現・鑑賞の学習行動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	【漢字の書】 ➢『松風閣詩巻』(行書) ➢『祭姪文稿』（行書）	① 蘇軾、黄庭堅、米芾が活躍した時代背景や、三人の書道氏における位置づけを知り、表現の特色を理解する。 ② 北宋の三大家の作品を鑑賞し、自由闊達で香性豊かな表現を感じ取る。 ③ 行書の効果的な表現の技能、変化や調和等による全体の構成に工夫をし、用筆や字形の特徴を意識して、臨書する。 ④ 顔真卿の「三稿」の文章の概要を知り、筆意に表れた筆者の思いや感情を考える。		○		○	（知）行書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体構成の技能を身につけている。 （知）線質、字形、構成等の要素と表現効果、日本中国間の文字と書の伝統文化、時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。 （思）行書の古典の表現形式に応じた全体構成について構想し工夫している。 （学）主体的に漢字の書の創造的な表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	【多彩な印の表現】 ◆篆書の書体変遷史 ◆篆刻（姓名印） ◆検字/印稿布字/運刀法（陽刻・陰刻の違い）	① 教科書掲載のさまざまな書体による姓名印を鑑賞し、用いる書体による印象の違いや魅力を味わう。 ② 書画制作における「落成款識」について理解を深める。 ③朱文印/白文印/一字印の制作手順を理解する。 ④ 書体や書風、配字による表現の効果を理解し、仕上がりをイメージして表現や構成の工夫をする。		○		○	（知）篆刻や刻字を構成する様々な要素、書体・書風・配字等による表現の効果を理解している。 （思）目的や用途、意図に応じた効果的な表現技能、書体、書風、配字等による全体構成など個性的な表現について構想している。 （学）主体的に篆刻の創造的な表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしてしている。	○	○	○	2
2学期	～１学期末からの続き～ 【多彩な印の表現】 ◆篆書の書体変遷史 ◆篆刻（姓名印） ◆検字/印稿布字/運刀法（陽刻・陰刻の違い）	① 教科書掲載のさまざまな書体による姓名印を鑑賞し、用いる書体による印象の違いや魅力を味わう。 ② 書画制作における「落成款識」について理解を深める。 ③朱文印/白文印/一字印の制作手順を理解する。 ④ 書体や書風、配字による表現の効果を理解し、仕上がりをイメージして表現や構成の工夫をする。		○		○	（知）篆刻や刻字を構成する様々な要素、書体・書風・配字等による表現の効果を理解している。 （思）目的や用途、意図に応じた効果的な表現技能、書体、書風、配字等による全体構成など個性的な表現について構想している。 （学）主体的に篆刻の創造的な表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしてしている。	○	○	○	12
	【漢字の書】 ➢『始平公造像記』（楷書） ➢『十七帖』（草書） ➢『書譜』と『自叙帖』（草書）	① 各書体の線質、字形、構成等の要素と表現効果、作品が書かれた経緯や内容と大意を理解するとともに作者や時代背景を確認する。 ②「始平公造像記」の切れ味のある点画や肉筆な線質など、北魏の楷書特有の表現いて理解する。 ③「十七帖」を鑑賞しながら、草書の字形には一定の法則があることを理解する。 ④「書譜」と「自叙帖」を比較・鑑賞し、文字の大きさ、線の太さ、墨の潤渇などの変化に富む草書の多彩な表現を感じ取る。 ⑤ 各古典の書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。		○		○	（知）各古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体構成の技能を身につけている。 （知）線質、字形、構成等の要素と表現効果、日本中国間の文字と書の伝統文化、時代、風土、筆者などとの関わりについて理解を深めている。 （思）行書の古典の表現形式に応じた全体構成について構想し工夫している。 （学）主体的に漢字の書の創造的な表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	【仮名の書】 ➢『高野切第一種』	①「高野切第一種」を鑑賞し、連綿や墨継ぎによる表現の美を感じる。 ②「高野切」の伝来と第一から三種までの意味や書風について理解する。 ③意連・形連の仕方や墨継ぎの場所を確認し、その効果を理解する。 ④ 書風に即した用筆・運筆を意識して、臨書する。			○	○	（知） 仮名の書を構成する様々な要素や、仮名の古筆の特徴と用筆・運筆とのかかわりについて理解している。 （思）仮名の古筆の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 （学）主体的に仮名の書の創造的な表現・鑑賞の学習行動に取り組もうとしている。	○	○	○	2
3学期	➢『三色紙』 （継色紙/**寸松庵色紙**/升色紙）	①「三色紙」の比較・鑑賞を通して、散らし書きなどの紙面構成方法や表現効果について理解する。 ②連綿の美と余白の美の相乗効果について鑑賞し、理解を深める。 ③「寸松庵色紙」七形式に分類して、基本的な散らし書きの理解を深める。 ④ 古筆の書風に即した用筆・運筆、紙面構成を意識して、臨書をする。			○	○	（知） 仮名の書を構成する様々な要素や、仮名の古筆の特徴と用筆・運筆とのかかわりについて理解している。 （思）仮名の古筆の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 （学）主体的に仮名の書の創造的な表現・鑑賞の学習行動に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	【漢字仮名交じりの書】 ➢古典の書風を生かそう ➢創作をする （イメージを書で表現する）	① 教p74-81の書作品を鑑賞し、それぞれの作品から受ける印象や特に惹かれた作品について批評をまとめる。 ② 鑑賞から受けた印象は、どのような表現の工夫によるものなのか、紙面構成や用具・用材などの観点から確認する。 ③ 著作権について確認する。 ④ 教科書の作品例を参考にしながら、紙面構成等の表現の効果を構想を練り、創作する。	○			○	（知）漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素や、名筆や現代の様々な書の表現と用筆、運筆都の関わりについて理解している。 （知）目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、漢字と仮名の調和等による全体の構成の技能を身につけている。 （思）目的や用途、表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現、現代に生きる創造的な表現について構想し、工夫している。 （学）主体的に漢字かな交じりの書の創造的な表現・鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8 合計 70